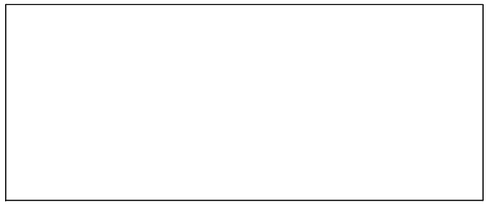
平成　28　年度

事務事業評価シート

（社会教育・スポーツ課）

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要



野辺地町教育委員会

目　次

1　一人一人の主体的な学習と社会参加の推進
（　1　）　のへじ元気講座　・・・・・・・・・　1
（　2　）　ハッチョウトンボ観察会　・・・・・・・・・　2
（　3　）　青少年ホーム教養講座　**【削除】**　・・・・・・・・・　3
（　4　）　文化賞授与式　・・・・・・・・・　4
（　5　）　馬門公民館教養講座　・・・・・・・・・　5
2　次世代を担う青少年の育成
（　1　）　子ども会事業　・・・・・・・・・　6
（　2　）　ふるさと探偵団　・・・・・・・・・　7
（　3　）　ふれあい通学合宿　・・・・・・・・・　8
（　4　）　ふれあい教育フェスティバル（**平成２８年度は学校教育課担当**）　・・・・・・・・・　9
（　5　）　在学青年ボランティア　・・・・・・・・・　10
3　地域を支える人材の育成
（　1　）　生涯学習大学　・・・・・・・・・　11
（　2　）　男女共同参画研修会　・・・・・・・・・　12
4　学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上
（　1　）　家庭教育推進事業　・・・・・・・・・　13
（　2　）　いのちのお話出前講座　・・・・・・・・・　14
5　社会教育推進のための基盤整備
（　1　）　各種会議の開催　**【削除】**　・・・・・・・・・　15
　　社会教育委員会議、馬門公民館運営審議会、青少年育成町民会議
　　勤労青少年ホーム運営会議、青少年健全育成推進協議会
（　2　）　社会教育団体の支援　・・・・・・・・・　16
　　子ども会育成連絡協議会、連合ＰＴＡ
　　地域婦人団体連合会、文化振興協議会の活動支援
6　生涯スポーツの普及・振興
（　1　）　ｽﾎﾟｰﾂ推進委員会議の開催及び町各種のｽﾎﾟｰﾂ事業への活用　**【削除】**　・・・・・・・・・　17
（　2　）　町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰　・・・・・・・・・　18
（　3　）　健康ウォーターマラソンスタンプラリーの開催　・・・・・・・・・　19
（　4　）　青森県民スポーツレクリエーション祭参加　・・・・・・・・・　20
（　5　）　学校体育施設の開放促進　・・・・・・・・・　21
（　6　）　総合型地域スポーツクラブの検討　・・・・・・・・・　22
（　7　）　水泳教室開催　・・・・・・・・・　23
7　青少年スポーツの振興
（　1　）　スポーツ少年団への支援と育成　・・・・・・・・・　24
（　2　）　町営球場開設記念兼ライオンズクラブ旗争奪中学校野球大会の支援　・・・・・・・・・　25
（　3　）　青森県小学生スキー大会の開催　・・・・・・・・・　26
8　競技スポーツの推進
（　1　）　青森県民駅伝競走大会選手強化支援　・・・・・・・・・　27
（　2　）　町体育協会活動支援　・・・・・・・・・　28
（　3　）　競技スポーツ強化支援事業　**≪新規≫**　・・・・・・・・・　29
9　スポーツ情報の充実
（　1　）　スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存　・・・・・・・・・　30
（　2　）　スポーツカレンダーの発行　・・・・・・・・・　31
10　社会体育施設・設備の整備・運営
（　1　）　体育施設の総合的な修理修繕と運営　・・・・・・・・・　32
（　2　）　体育施設利用団体会議開催による有効活用意見の聴取　・・・・・・・・・　33
11 キャリア教育の推進
（　1　）　チャレンジショップ　・・・・・・・・・　34

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	のへじ元気講座	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	参加者の自主的な学習意欲を促進し、相互交流・社会貢献を通して地域活性化を図り町を「元気」にすることと、参加者一人ひとりが生きがいを見つけ「元気」な生活を送るための心と体の健康づくりを目的に実施する。年間受講料1,000円を徴収しその中から講師への謝金等を支払っている。 収入　受講料・昼食代・繰越金　165,256円 支出　講師謝金・昼食代　163,607円			
事業の対象	成人（年８回、受講者６５名、延べ受講者２６６名）			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	138 千円	164 千円	千円

事業の実績・成果等（数値）

５月１７日（火）講話「文化としての松原泰道氏が説く般若心経」　講師：野辺地町教育委員会 淺利能之教育長

６月１５日（水）町外研修「十和田市」ワダカン株式会社・手づくり村鯉艸郷・十和田市馬事公苑駒っこランド　見学

７月１４日（木）消費教室「消費者トラブル～被害にあう前に～」　講師　青森県消費生活センター

９月１２日（月）笑いヨガ「笑ってのばそう健康寿命～笑顔は人生の万能薬～」講師　津島弘美氏

１０月２０日（木）音楽交歓会「町内小・中音楽交歓会」会場　野辺地小学校

１１月１１日（金）運動教室「３Ｂ体操を楽しもう」講師　日本３Ｂ体操協会　公認指導者　浅野裕子氏

１２月１５日（木）閉講式・講話「子どもの育ちを支える」講師　十和田ＮＰＯ子どもセンターはぴたの　中沢洋子氏

７月５日（火）特別講座「更生保護と社会を明るくする運動を知る」青森保護観察所　所長　松原進一氏

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	２年目となる本講座では、昨年度よりも多くの方に各講座に参加していただくことが出来た。今後も講座内容を工夫し、より幅広く学習・活動できる場を提供していきたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	B	A	B	A	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

男性向け男性主体の講座を考えてみてはどうか。
平均して３０名の参加は素晴らしい。
男性向け、女性向けと最初から分けて考えてみては、内容も違ってくるのでは。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ハッチョウトンボ観察会	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	青森県レッドデータのＡランクに指定されている「ハッチョウトンボ」の生息地を保護し、自然環境を保護するとともに、生態について学ぶことを目的として観察会を実施。 平成２８年度から町内小学校３年生を対象に総合的な学習として実施。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	12 千円	15 千円	10 千円

事業の実績・成果等（数値）	野辺地町スキー場　あったかハウス前にあるハッチョウトンボ生息域を、ロープで侵入を規制（６月～11月）し、トンボが生息できる環境づくり・保全を行っている。 今年度も、文化財保護審議委員の高沢岩男氏を講師に招き観察会を実施した。 開催日：平成２８年　７月　１日 参加者：小学生96名　一般：8名　　計104名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	平成28年度は児童に対しての対応に重点を置いたために、一般参加者の増に繋がらなかった。次年度は委員会で実施している生涯学習関係の事業とも連携を取るなどして、一般に対しても周知の増を図る。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

子どもたちの観察する機会があってよい。郷土愛は小さいうちから育てていくのが良いと思う。
ＰＲ不足、参加者を増やしていけたらと思う。
一般への情報発信をもっとしてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青少年ホーム教養講座	担当者名	新渡秀嗣

事業の目的・内容				
事業の対象	成人			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円
事業の実績・成果等（数値）				

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	□ おおむね必要である	■ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	□ おおむねできている	■ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価		
評価説明及び考察、課題	平成28年度で事業完了したため評価対象から除外	
事業の方向性	□ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　■ 事業完了	

【削除】

事務評価委員の評価

総合評価	―	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		―	―	―	―	―	D

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

個人的な集まりとなっているのでは。
上手く公民館の講座に溶け込ませるような工夫がほしい。
みんなの教室へ移行するならば、事業完了。

評価委員意見（平成28年度）

平成２８年度から削除
評価なし

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	文化賞授与式	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	文化活動において優れた業績をあげ、町の文化振興に寄与した方を表彰する。
事業の対象	町民一般

事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	93 千円	78 千円	116 千円

事業の実績・成果等（数値）	・１２月中旬　小中学校、関係団体に推薦依頼 ・２月上旬　　表彰審査会（７人）、受賞通知（表彰者） ・２月２３日　授与式　１６：００～１７：００　中央公民館 ○町文化賞 文化功労賞（個人）１人　文化指導者賞（個人）３人 文化奨励賞（個人）２人（団体）３団体 ○教育委員会文化賞 文化優秀賞（個人）９３人（団体）３団体

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	作品・展覧会での入賞作品を展示可能か検討する。 受賞対象となる人物・団体が存在しても、委員会に情報が届く時期によって、当該年度中に受賞させることが難しい場合がある。その場合は次年度の受賞対象とする等の対応のほか、引継ぎを確実に行う必要がある。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

評価される場があって次への意欲へつながる。
このような賞があるというＰＲをしてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

小学生も公民館で表彰してもらいたいが、時間の関係ならば仕方がない。
（小学生は学校で表彰している。）

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	馬門公民館教養講座	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	趣味と教養を高めるとともに、仲間づくりのため開催する。 ６月～１０月　　学習成果を馬門コミュニティ文化祭で展示、発表
事業の対象	成人

事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	受講者負担（38）千円	受講者負担（29）千円	受講者負担 千円

事業の実績・成果等（数値）	・講座内容（人数）　ダンス（１１人）、着付け（９人） ・受講料　１，５００円 ・講師謝金は、受講料で支出

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	発表や作品の内容が年々充実している。 受講生の中から、次の指導者となる人が育ってほしい。 そのためには講座の内容等について講師・受講者から要望等を集め、双方共有する等の対応が必要か
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

次の指導者の育成を考えていただきたい。
使用頻度が高いし馬門のコミュニティの場だというのが、よく分かる。
馬門のコミュニティは根強いものがある。
次の指導者の育成とあるが、はたして、今の指導者がそのように考えているのかは現場との差があるような気がする。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	子ども会事業	担当者名	貝塚千佳

事業の目的 ・内容	・子ども会の加入状況 幼児4名、小学生206名、中学生9名　計219名加入 ・実施事業について わくわくサマー体験（夏休み）、レクリエーション大会（秋期）			
事業の対象	子ども会　会員			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	295 千円	313 千円	344 千円

事業の実績 ・成果等 （数値）	・子ども会わくわくサマー体験 平成28年8月6日　場所：小川原湖水浴場、小川原湖青年の家 子ども会員　　56名参加（うち子ども33名参加） ・子ども会レクリエーション 平成28年11月20日　場所：青少年体育センター 子ども会員、保護者　73名参加

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	サマー体験に関しては昨年度とほぼ同様の内容であったため、次年度は活動内容について見直しが必要となる。レクリエーションについては、世代間、地域間交流を促進させることを目的として、在学青年ボランティア会と青森県内の子ども会青年リーダーに協力を依頼した。結果としては事業内容にも新規性が見られた。今後も他地域、団体との連携も踏まえた事業展開を検討していく必要がある。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	B	A	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

子ども会に加入させると親も手伝わなければならないというめんどくささを感じる。
そのような雰囲気を解消させたい。
子ども会事業のあるところ無いところがあるので、リーダー育成を図ってほしい。
今年、小川原湖へ行った子どもたちを見ているとすごく楽しそうだった。
日帰りというところが、良くも悪くも引率者からすれば楽だと思うが、育成の意味ではリーダー研も無くなったということなのでＡには出来ない。

評価委員意見（平成28年度）

サマー体験に参加する子供たちを見たら、ワクワク感を強く感じた。
担当職員の方々が大変だと思うが、すばらしい事業だと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふるさと探偵団	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	町の良さを知って郷土愛を深め、誇りを持たせるとともに、子ども同士のコミュニケーション能力を育成する事業を実施。 平成28年度のテーマは「野辺地の商業と歴史」			
事業の対象	小学３～中学生			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	2 千円	10 千円	15 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２８年　８月　２日（火）　9:00～12:00　参加者　　８名 テ ー マ：「野辺地の商業と歴史」 町内商店の古道具（昔使用していた商売に関わる道具）を通して、当町の歴史、商業の変遷を実感することで、郷土への興味・関心を深めるほか、与えられた情報を分析・推理することで「考える力」を養う。また、各校児童生徒が混ざり合ったグループ内での交流を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	参加した子ども達からは見たことのない業種の仕事を直に見る事が出来た等、好奇心を刺激することができたように思う。 しかし、目標参加者数を多めに設定してしまったために、事業内容に修正をかける必要が有った等、当初の想定に甘さが見られた。 また参加者の対象範囲を広くとったが、その場合中学生等年長者を対象とした課題や役割を適切に与える必要がある等次回への課題が多々見られた。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		C	C	C	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

興味をそそられるようなテーマを考えてほしい。
ＰＲの仕方について工夫が必要。
年々参加者が減ってきていることが、興味のわく内容を考えてほしい。
毎年、同じような内容なので、ワクワクするような工夫をしてほしい。
小学生と中学生の参加者に対してひとつのテーマで実施するには年齢差があるのでは。

評価委員意見（平成28年度）

歴史民俗資料館とコラボして行ってはどうか。大人の専門家を入れて内容を充実させてはどうか。
他の町ではやっていないような事業なので、継続してもらいたい。
これからもテーマや目的に沿って、興味のわく内容を考えてもらいたい。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふれあい通学合宿	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	２泊３日で宿泊して通学をし、助け合って活動することで、身の回りのことなどの居・食・住を自分でできるようにし、自立心の養成や団体生活を通しての交流を図ることを目的に実施する。			
事業の対象	小学生、中学生			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	165 千円	165 千円	165 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２８年９月１日（木）～３日（土） 野辺地町中央公民館 ９月１日…開会式、買い物、夕食調理、入浴、宿題・自主学習 ９月２日…朝食調理、夕食調理、入浴、陶芸教室 ９月３日…朝食調理、館内清掃、流しソーメン、感想文作成、閉会式 参加人数：２４人（野小１３人、若小７人、馬小２人、野中２人） （男女内訳　男子　５人　女子１９人）

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	今年度も募集人員を越えての申込みがあった。特に女子の申込みが多く、１１名をお断りした。 中学生もリピーターとして申し込みがあり、今後も中学生の活動場所を増やしていきたい。 女子の参加（特にリピーター）が多いことから、次年度は新規希望者も参加できるような仕組みを検討する必要が有る。 また男子の参加数が少ないことから、今後は募集の段階で興味を抱くような周知方法を検討する必要が有る。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

女子の申込みが多いため、その対応について考えてほしい。
防災意識を高めるためにも経験させてほしい。
職員、ボランティアが非常に頑張っている。
もっと、定員を増やせるよう工夫してほしい。
パブリックビューイングもあったのでちょうど良いプログラムだ。

評価委員意見（平成28年度）

すばらしい事業なので、これからも継続してもらいたい。
こういう機会をなくして欲しくない。

事務事業評価シート（H28学校教育課にて評価）

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふれあい教育フェスティバル	担当者名	飯田満

事業の目的・内容				
事業の対象	小学生、中学生、成人			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	198 千円	千円	千円
事業の実績・成果等（数値）				

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価		#N/A
評価説明及び考察、課題		
事業の方向性	□ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

（学校教育課の事務事業評価シート6ページに記載）

事務評価委員の評価

総合評価	―	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		―	―	―	―	―	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

関係者の集まりという感じもする、幅広く興味も持ってくれるような工夫が必要。文字に触れる機会をもっと提供してほしい。
緊急メールを利用して保護者あてにお知らせしてはどうか。

評価委員意見（平成28年度）

隔年で学校教育課と社会教育・スポーツ課が交替で担当している。
平成２８年度は、学校教育課が担当のため、そちらに記載されている。
（学校教育課の事務事業評価シート６ページに記載）

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	在学青年ボランティア会	担当者名	貝塚　千佳

事業の目的・内容	高校生（野辺地高校・野辺地西高校）を対象としてボランティア意識を醸成することを目的として実施。 野辺地高校６名　野辺地西高校６名			
事業の対象	高校生			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	24 千円	29 千円	15 千円

事業の実績・成果等（数値）

平成２８年７月～平成２９年１月

収入　　補助金　15,000円　　支出　　事業費　29,274円

７月２４日（日）　「常夜燈フェスタ」　ブース運営、商工会青年部イベント補助
　子ども向けブースの運営とイベントの補助を行い、来場した子どもとの交流を図った。

１１月２０日（日）「子ども会レクリェーション大会」
　子ども会レクリェーション大会の運営補助を行い、幅広い年代の子どもとの交流を図った。

１月２８日（土）「一人暮らし老人宅訪問事業」
　各宅を訪問し除雪ボランティアと蒸しパン配布を実施し地域の方と交流を図った。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	各校のボランティア部員は減少傾向にあるものの、自ら企画し事業を実施する等高校生が主体となり活動することが出来た。今後も高校生の意見をとりいれながら事業を展開していきたい。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

お手伝い感覚ではなく、高校生が自ら考え実施するような取り組みとしてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

　子供たちに少し年上の世代のお兄さん・お姉さんがボランティアで活躍している姿を見せる良い機会だ。　子供たちから見たら親近感があって良いモデリングになる。
　学校やＰＴＡも親子ふれあいフェスティバルなどの事業を継続するうえで、たいへん助けられている。

事務事業評価シート

施　策　名	地域を支える人材の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	生涯学習大学	担当者名	濵中　太一

事業の目的・内容	体系的な高度な学習内容の講座を開設し、町民の生涯学習及び社会参加活動による生きがいの創造を推進するとともに、学生が地域活動のリーダーとして活躍することを目指し実施した。 平成５年度事業開始し、２３年目となる。			
事業の対象	成人（年間登録制）			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	受講者負担（88）　千円	受講者負担（109）　千円	受講者負担（95）　千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２８年７月～１２月　１８：００～１９：３０　図書館ほか　受講料２，０００円 受講者数４１名　延べ１８０名受講 ①『夢をカタチに』　アトランタ・シドニーオリンピック　ボート競技出場　吉田理子氏 ②『人生は80歳から！～うちのバッチャと私～』コラムニスト　山田スイッチ氏 ③町外研修（みちのく丸、あおもり北のまほろば歴史館見学） ④『ふれあい教育フェスティバル』豊田児童センター（弘前市）の一輪車演技ほか ⑤『地域資源と食品や化粧品産業をつなぐアイディア』（地独）青森県産業技術センター　内沢秀光氏 ⑥『地域がつながる場＝サードプレイスづくりの挑戦』イカす大畑カダル団　代表　長岡俊成氏 ⑦『桜流鏑馬～伝統馬上武芸を今に～』十和田乗馬倶楽部インストラクター　上村鮎子氏

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	年々、新規参加者の増加や学習の継続がされている。今後も様々な分野のテーマを選定し、学習の機会を提供するとともに、地域や住民のニーズや課題に合うよう考えていきたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	A	A	B	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

内容的の割に非常に安い。
先日、山田スイッチさんが来て下さり、大変楽しかった。
参加した方々が、地域で意識を持って学んだことを外へ活躍して欲しい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	地域を支える人材の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	男女共同参画研修会	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	男女共同参画への意識向上を図るため実施する。 ・男女共同参画職員研修会 平成２８年１１月９日（水）１３：３０～１５：３０　中央公民館第３会議室 ・男女共同参画町民研修会 平成２８年１２月１日（金）１５：００～１６：３０　中央公民館ホール			
事業の対象	庁内職員及び町民			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	40 千円	40 千円	40 千円

事業の実績・成果等（数値）	・職員研修会　参加人数　２１名　（男１４名　女７名） 「明るい職場・家庭とメンタルヘルス～ストレスとコミュニケーションを考える～」講師　青森大学　教授　船木昭夫氏 町の男女共同参画基本計画推進のために各課より補佐以上の職員１名を含む２名以上の参加を要請した。 ・町民研修会　参加人数　５５名（男８名　女４７名） 「人生はコミュニケーション」講師　青森放送　米澤章子氏 広報への掲載と町防災無線のほか、男女共同参画ネットワーク加盟団体や教育委員会事業で周知した。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	■ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	男女共同参画意識啓発として実施した町民研修会については、参加者より周知方法、テーマの選定、対象者等について意見が多く挙げられたので改善し実施していきたい。また、人材育成の面から当課で意識啓発研修会を実施していたが町全体で取り組むため他課と連携して取り組んでいくことが必要であり、教育委員会部局ではなく町部局で担当することとなる予定。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		C	C	C	C	C	C

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

議場でなく研修場所を変えてみてはどか。
ＰＲ不足である、楽しいと思わせるひきつけ方を工夫してほしい。
どこの課が実施するにせよ、町全体の考え方骨子がしっかりしていて進めてほしい。良くわからない。
進化が見られない。野辺地らしさを見せてほしい。
根付いてない、野辺地は非常に遅れている。
情報発信が少なすぎる。
他の課や民間、町民とも連携する取り組みを活発にしていかないと、このままでは危機感を感じる。
教育委員会で担当することが妥当なのか？

評価委員意見（平成28年度）

民間との連携も視野に入れ、効率的な活動になるように役場全体で見直してはどうでしょうか。

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	家庭教育推進事業	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	参観日や保護者会等の保護者が多く集まる機会に保護者または園児・児童を対象として家庭教育に関する講座を実施している。実施場所は小中学校・幼稚園・保育園。 開催時期　平成２８年７月～平成２９年２月 参加者数　約810名（園児・児童含む）			
事業の対象	幼児・児童・生徒とその保護者			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	49 千円	35 千円	70 千円

事業の実績・成果等（数値）	①７月１２日（火）馬門小「親子ふれあい読書教室」　講師　親子ふれあい読書アドバイザー　白戸羊子氏 ②９月１３日（火）カトリック幼「祖父母とキッズダンス」講師　スタジオクラウド　駒井慎也氏 ③９月３０日（金）わかば保「親子で３Ｂ体操」講師　日本３Ｂ体操協会公認指導者　浅野裕子氏　織田恭子 ④１０月７日（金）のへじ保「親子でキッズダンス」講師　スタジオクラウド　駒井慎也氏 ⑤１２月８日（木）のへじ小「健康わかすげ会議～体の中の魔法の薬～」講師　青森県中央病院　小野正人氏 ⑥２月２２日（水）野辺地中「薬物乱用防止教室」講師　高野薬局　高野修司氏

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	親子のふれあいの場を提供しており、実施主体から毎年恒例事業としたいの声も上がっている。現在は各実施主体毎に実施しているが、町全体としての取り組みを今後検討していきたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

町の教育振興基本計画で強調している内容とは、まだまだ改善の余地があるのかなと感じている。
施策で学校・家庭・地域の連携とあるが、もっと強化して欲しい。
親子の触れ合いは大事だと思う。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	いのちのお話出前講座	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	町内３小学校合同で４学年とその保護者を対象に、男女の体の違いや妊娠・出産の知識を正しく伝えることで性と心の教育及び親子の絆を深めてもらうための講座を実施。 委託料　37,800円（消費税・交通費含）協力妊婦謝礼　5,000円（町商品券） 消耗品費　35,000円 ※健康づくり課を通して県より全額補助を受けている（平成２８年度～）
事業の対象	町内４学年児童とその保護者

事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	30 千円	78 千円	78 千円

事業の実績・成果等（数値）	対象：町内３小学校４学年とその保護者 人数：119人（児童90人・保護者20人・教員9人） 講師：青森県助産師会「いのちのお話プロジェクトあかり」 会場：若葉小学校　講堂 （会場校は若葉→野辺地→馬門の順に持ち回り） 健康づくり課を通して町内在住妊婦へ、講座内で胎動の心音を聞かせていただく協力を要請している。なお、平成２８年度より協力妊婦へ謝礼として町商品券を渡している。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	平成２８年度より県補助を受け、委託業者への委託料として交通費の計上と協力妊婦への謝礼を計上している。参加した保護者と児童が一緒に出産時を振り返る機会になっており毎年高評価をいただいている。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

課題の改善へ向けてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	各種会議の開催	担当者名	飯田満

事業の目的・内容				
事業の対象	各種委員			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	175 千円	千円	千円
事業の実績・成果等（数値）				

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価		#N/A
評価説明及び考察、課題		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

【削除】

事務評価委員の評価

総合評価	—	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		—	—	—	—	—	—

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

評価しづらい。除外しても良いと思う。
効果的な意見をもらって、活かしているのかと考えたとき、はたしてＡなのかと考えると、分からない。
空欄とする。

評価委員意見（平成28年度）

平成２８年度から削除
評価なし

事務事業評価シート

施　策　名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	社会教育団体の支援	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	社会教育における青少年健全育成及び文化活動等を推進するため、団体が行なう事業について、補助する。また、団体事業を支援する。
事業の対象	社会教育団体

事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	427 千円	487 千円	477 千円

事業の実績・成果等（数値）

団体補助金　・子ども会育成連絡協議会100,000円　・婦人団体連合会28，000円
・文化振興協議会104，000円　・連合ＰＴＡ100，000円
・在学青年ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ会15，000円　・ピコロ30，000円　・文化少年団110，000円
・子ども会、在学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱは教委で、ピコロ、文化少年団は公民館で事務局を務めており、体験活動の充実を図っている。※ピコロは平成２８年度で活動を終了した。
・連合ＰＴＡでは、２４年度から緊急メールシステムに着手。教委では、経費を補助している。

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

・緊急メールへの登録は、保護者の理解により、約９割が登録し、台風時の緊急連絡や行事連絡で活用されているほか、昨年度は不審者情報等の早急な周知に活用されている
・各団体の活動者の無理のない世代交代が必要と思われる。

事業の方向性

■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

今後も継続して充実を図ってほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ推進委員会議の開催及び町各種のスポーツへの活用	担当者名	安村 英彦

事業の目的・内容				
事業の対象				
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	93 千円	千円	千円
事業の実績・成果等（数値）				

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価		#N/A
評価説明及び考察、課題	事業等での協力は、積極的である。 推進委員主催の軽スポーツ事業を企画運営し、スポーツ推進委員のＰＲを含め活動への取り組みが必要である。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

【削除】

事務評価委員の評価

総合評価	―	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		―	―	―	―	―	―

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

評価しづらい。除外しても良いと思う。
効果的な意見をもらって、活かしているのかと考えたとき、はたしてＡなのかと考えると、よく分からない。
空欄とする。

評価委員意見（平成28年度）

平成２８年度から削除
評価なし

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰	担当者名	安村 英彦

事業の目的・内容	スポーツ競技大会において優れた成績をおさめた者を表彰し、もって野辺地町のスポーツの普及、振興を促進することを目的とする。			
事業の対象	野辺地町表彰規則による（町民他）			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	330 千円	379 千円	397 千円

事業の実績・成果等（数値）

平成２９年３月２３日（木）　１６：００～１７：３０

野辺地町中央公民館

支出　　記念品　301983円　　消耗品費　20,489円　　印刷製本費　65,662円　　筆耕料　10,500円

県大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者及び、町のスポーツ振興に寄与した者を野辺地町スポーツ賞として表彰した。また、郡大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者を野辺地町教育委員会スポーツ賞として表彰。
平成２８年度受賞者
町：スポーツ功労賞２名　スポーツ指導者賞１名　スポーツ栄誉賞１名　スポーツ大賞２名　スポーツ賞個人６名団体１
　スポーツ優秀選手賞　個人１１名　団体１１
委員会：生涯スポーツ優秀賞　１名　スポーツ奨励賞　個人１８名　団体４

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

Ｈ２５に表彰規程の見直しを行った結果、選考基準が受賞の明確化につながってスムーズに審査できる。
また、受賞する選手・団体の励みになり、競技力の向上につがっている。
Ｈ２８は、受賞者数が増になり、児童・生徒・一般、均等に成績を収めている。

事業の方向性

■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	A	B	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

これがあることで励みになると思う。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	健康ウォーターマラソンスタンプラリーの開催	担当者名	濵中　太一

事業の目的・内容	健康増進及び運動不足解消を目的に多くの町民の参加を募集し、町民の健康維持の一助となることを目的とする。野辺地町から仙台市までの距離（４００キロ）を完歩することを目標にし、自分のペースでプールの中を歩く。配布しているスタンプカードに当日歩いた距離を記入し、スタンプを押して記録する。実施期間終了後に最終結果を掲載した完水歩証を配布し、上位5位に施設無料券を贈呈する。なお、参加者は施設使用料が410円から210円になる。
事業の対象	２０歳以上の町民

事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	22 千円	19 千円	22 千円

事業の実績・成果等（数値）	期　　間：平成２８年７月２０日（水）～平成２９年３月１２日（日） 場　　所：野辺地町屋内温水プール「サンビレッジのへじ」 参加者数：１３４名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	町民がスポーツ活動を始めるきっかけになっており、普段施設を使用しない利用者が施設を活用してスポーツ活動に取組んでいる。 参加者からも健康になった、運動が習慣化した、友人が増えたとの声が上がっている。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

もっと周知を徹底して欲しい。

評価委員意見（平成28年度）

もっとＰＲをして欲しい。
参加者134名と多いところは評価されるべきだ。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民スポーツレクリエーション祭参加	担当者名	安村 英彦

事業の目的・内容	広く県民にスポーツ・レクリエーション活動のばを提供し、県民一人ひとりの活動への参加意欲を喚起するとともに、県民の生涯を通したスポーツ・レクリエーション活動の実践を図り、もって健康で活力ある生活に資することを目的としている。
事業の対象	野辺地町の各種レクリエーション団体が参加

事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	23 千円	23 千円	30 千円

事業の実績・成果等（数値）	第９回青森県スポーツ・レクリエーション祭への参加 平成２８年７月２日（土）３日（日）　主会場：青森市ほか県内各所 参加競技（６団体６０名参加） ①グラウンド・ゴルフ競技　15名　②ゲートボール競技　7名 ③ふれあいボウリング競技　3名　⑤マスターズ陸上競技　3名 ⑤レクリエーションダンス競技　26名 ⑥ターゲット・バードゴルフ競技　5名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	生涯スポーツについては、各団体において活動に積極的に参加しており非常に良い方向に進んでいると思われる。 このような催しにできるだけ当町の代表として参加してほしい。 参加団体は１減であるが、参加人数が増加した。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

団体、一般に対して、もっと周知を図ってほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	学校体育施設の開放促進	担当者名	貝塚　千佳

事業の目的・内容	スポーツ活動の普及・振興を目的として町内小・中学校の体育館、校庭を児童・生徒が使用していない時間に開放する。 年間で使用する団体へは一年毎に申請書を提出してもらうこととしている。			
事業の対象	町民			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２８年度　年間利用 利用団体　２０団体 利用回数 若葉小学校　４５１回 野辺地小学校　３７２回 馬門小学校　６７回 野辺地中学校　８８回 計　９７８回

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	多くの団体が体育館を利用し、活動が行われている。利用マナーについては改善されてきていると感じているが今後も注意を促していきたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	B	A	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

利用者、団体のマナーについて啓発を活発にしてほしい。
もっと、利用者に規制して厳しくしてほしい。
利用者に使った後のゴミ等あとしまつをチェックできるようなチェック表を書いてもらってらどうか。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	地域総合型スポーツクラブの検討	担当者名	濵中　太一

事業の目的・内容	当町の各スポーツ団体との連携を強化し、地域住民にも理解を求め、それぞれが有する課題等の共有、解決を図りながら、町のスポーツの方向性を検討する。			
事業の対象	町民全般			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円
事業の実績・成果等（数値）	スポーツ団体のスポーツに対する意識を調査し、町の体育・スポーツ行政が向かうべき方向性を検討するとともに、総合型地域スポーツクラブ設立に向けた意見聴取を行うため、平成２９年３月１６日に研修会を開催した。 研修会では、総合型地域スポーツクラブの概要を説明し、各スポーツ団体の活動状況を発表してもらい、クラブ設置についての課題等について話し合った。			

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	野辺地町の実情に合ったクラブ設置に向けて、各スポーツ団体の課題や意見を詳細に聞取りする必要がある。その状況を踏まえながら、クラブ化については慎重に検討しなければならない。県の担当の助言を受けながら、野辺地町型のクラブを具体化していく。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	A	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

子どもたちの活躍の場、選択できる場の提供として必要である。
子どもの数が少なくなっているので推し進めてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	水泳教室開催業務	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	幼児・児童を対象に、安全かつ楽しく水泳し水に慣れること及び泳力技術向上を目的に前期と後期の二期にわたる水泳教室を開催する。 講師はウィング青森より２名が派遣されている。 参加料　幼児１，５００円　児童１，９００円（児童は入館料４００円含む） 募集定員人数 　前期　幼児　４０名　児童　６０名 　後期　幼児　４０名　児童　６０名			
事業の対象	幼児・児童			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	372 千円	372 千円	322 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２８年度実績　（毎週木曜日実施） 前期　第１グループ 6/16～7/7　第２グループ 7/14～8/4 後期　第１グループ 9/29～10/20　第２グループ 10/27～11/24（11/3を除く） 参加人数　前期　幼児　４０名　児童６０名 　　後期　幼児　４０名　児童４１名　　計　１８１名

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	後期教室の児童が定員に満たなかった。水に慣れることと楽しく水泳をすることを第一の目的に実施してきていたが、更なる泳力向上を求めている小学生参加者が増加している。来年度より定員人数と実施日、カリキュラム等を検討し、継続実施する。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

人口減少でスポーツ競技者も少なくなっている中でスポーツの選択が幅広く拡散しすぎるのではないか、成績重視を考えるならば、的を絞った取組みも必要ではないか。良くも悪くも難しい問題だと思う。
今後も継続して欲しい。

評価委員意見（平成28年度）

大人向けの教室もあれば良いと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ少年団への支援と育成	担当者名	貝塚 千佳

事業の目的・内容

子供がスポーツしやすい環境をつくり、スポーツを通して団体行動や仲間づくりに励む場を提供することで学ぶ機会を与える。

収入			支出		
	町補助金	345,000円		登録料	204,800円
	県補助金	70,000円		負担金	12,000円
	負担金	215,160円		補助金	319,640円
	繰越金	14,710円		事業費	82,960円
	雑入	1円		派遣費	2,916円
				手数料	756円
合計		644,871円	合計		623,072円

事業の対象：小・中学生、指導者

事　業　費

年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
金　額	637 千円	623 千円	345 千円

事業の実績・成果等（数値）

町スポーツ少年団の事務局として、団員の登録申請や各スポーツ少年団大会申込をおこなう。また、団員登録終了後各単位団に大会参加料や活動費にあててもらう為、補助金を配布する。

平成２８年度登録
団数　１０団　　登録者数　２２２名
指導者数　３５名　（うち有資格者指導者数２９名）

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価：B　優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

団数割補助、団員割補助を継続し、新たに認定員講習会参加費を助成した。今後も継続し、資格取得を促進していきたい。また、少子化により団員の人数が減少傾向にあり、平成２９年度より団員の登録規定が３歳から可能となる。

事業の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

スポーツ少年団みたいな、マーチングとかの文化少年団を立ち上げれば例えば、野小の子どもたちの中からもやってみたい子もいるはず、スポ少のような文化少年団。
もし、受入れ先としたら野辺地吹奏楽団とかになるのかな。
芸術少年団とか、幅が広がってくると思う。
指導者への講習会参加を促進してほしい。
指導者が資格とるためにはお金がかかるので、その面で補助していただければ助かると思う。

評価委員意見（平成28年度）

指導者の養成に成果を出して欲しい。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町営球場開設記念兼ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ旗奪取中学校野球大会の支援	担当者名	濵中　太一

事業の目的・内容	野辺地中学校をはじめ、近隣町村の中学校も招待し、大会を開催する。 野球競技を通じて、各校の交流を図るとともに、チームの団結力及び競技力向上を目指す。			
事業の対象	中学生			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	16 千円	20 千円	20 千円

事業の実績・成果等（数値）	日　時：平成２８年４月２３日（土）、２４日（日） 場　所：野辺地町営球場 参加校：野辺地中、東北中、上北中、千歳中、六ヶ所第一中、六ヶ所第二中、泊中、横浜中　８チーム 優勝・・・横浜・泊中　　準優勝・・・東北中

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	シーズン序盤のチーム力を図る大会として、各校の参加意欲の高さが見受けられるが、少子化により部員数の減少がみられ、チームを組めない学校があったため、混合チームでの参加を認めた。今後、混合チームでの参加が見込まれ、チーム数が減少することが考えられるので、運営面について協力団体と協議が必要である。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	A	A	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

一番最初の大会で３０回を迎えている、時期的に中体連前の力だめしということもあり、是非、継続して頑張ってもらいたい。

評価委員意見（平成28年度）

これからも継続してもらいたい。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県小学生スキー大会の開催	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	スキーを通じて児童の健全育成及びスキー技術や資質の向上を目標とし、スキーの町、野辺地町を全県的に広報しながら、実行委員会を中心に町をあげて応援、実施するものである。
事業の対象	県内小学生３～６年

事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	1,854　千円	1,505　千円	未定　千円

事業の実績・成果等（数値）	期　　日：平成２９年２月４日（土）、５日（日） 場　　所：国設野辺地まかど温泉スキー場 競技種目：距離競技、大回転競技、リレー競技 参加校　３６校　　参加人数　１５１名 12/9　第１回実行委員会 1/26　第２回実行委員会 1/31　陸上自衛隊第５普通科連隊と支援に関する協定書締結 3/17　第３回実行委員会

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	平成２７年度より距離競技３年生の部を設置以来、参加者の減少が停滞しつつある。しかし、リレーチームを組めない状況にあるので、オープン参加による混合チームでの参加を認め、多くの子ども達が参加できる機会が与えられるようにしている。

事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	A	B	A	B	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

リレーチームが組めないなか、本当に現場は頑張っている。
もっともっと盛り上がってほしい。
今後も継続してほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民駅伝競走選手強化支援	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	県主催の市町村対抗駅伝競走大会である。各学校の陸上部、スキー部顧問、アスリートクラブ等で実行委員会を組織し、参加対象者の中学生、高校生、一般選手を育成して、町選手団として大会に臨む。			
事業の対象	中学生・高校生・一般			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	655 千円	639 千円	635 千円

事業の実績・成果等（数値）

期日：平成２８年９月４日（日）青森市
結果：総合の部　９位　　町の部　３位
合同練習会　6/25、7/9、8/6　　選手選考会　7/16、7/20
現地試走会　8/11、8/22、8/28

5/25　第１回実行委員会
7/26　県へ選手名簿提出
8/28　市町村代表者会議
8/30　第２回実行委員会兼付添者会議

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

選手、関係者が一丸となり団結して総合力で順位が上がった印象がある。町代表として選考されなかった選手が自分のことのように代表選手を応援し、代表選手はそれに応えようと努力していた。このチームとしての一体感がメディアを通じて、町に活気を与えられればと思う。

事業の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	A	A	B	B	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

パブリックビューイングなどどうか。やっても良いと思う。
テレビを見ていて非常に残念なのが上位2チームくらいが映っている。
監督から聞いたところ、今回のチーム編成は県外からの大学生とかを入れないで地元で活躍している人たちで編成したらしい。
考え方でしょうけど、勝つためには成績の良い選手を入れるべきだが、日々、頑張っている人を重視した。
とても頑張っている。
町にとても活気を与えている。
町の部３位と４位では全然違う。

評価委員意見（平成28年度）

チームが上位入賞できるならば、観客を呼んでパブリックビューイングを実施してはどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町体育協会活動支援	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	当町のスポーツ振興の中核を担う体育協会を支援し、町民の体力・競技力を育てるとともに、スポーツにより町の活性化に資するものである。			
事業の対象	一般町民			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	740 千円	823 千円	940 千円

事業の実績・成果等（数値）	第３９回上北郡総合体育大会参加支援 平成２８年５月２８日（土）、２９日（日）　横浜町ほか １３競技参加　優勝種目：バスケットボール（男）、柔道 総合成績：７町村中６位 第７１回市町村対抗青森県民体育大会参加支援 平成２８年７月３０日（土）、３１日（日）　五所川原市ほか １１競技参加　優勝種目：柔道 ３０町村中１５位

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	各大会で上位入賞を目指して活動に励んでいるため、日頃のスポーツ活動は活発に行われている。加盟団体によっては、競技に対する意識の違いが明確であり、団体が衰退しないよう世代交代が必要とされる。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	C	C	C	C	C

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

成績が伸び悩んでいる感じがする、世代交代が進むよう頑張って継続してほしい。

評価委員意見（平成28年度）

体育協会がより積極的、主体的に運営できるよう支援して欲しい。
組織として、より自立する方向に向かうのが望ましい。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	競技スポーツ強化支援事業	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	まち・ひと・しごと創生総合戦略登載事業 東北大会、全国大会への出場が決定した町内小中学校、高等学校に在籍する個人、団体に対し、事前の強化合宿及び遠征に必要な経費を助成し、大会での上位入賞を支援するとともに、町の子ども達の目標となる選手の育成及び競技力向上を目指し、活気ある町勢を実現する。			
事業の対象	町内小学校、中学校、高等学校に在籍する個人・団体			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	0 千円	1,267　千円	1,800　千円

事業の実績・成果等（数値）
申請団体：野辺地中学校２件、野辺地高等学校７件、その他スポーツ団体２件 入賞者：（東北大会）２団体 （全国大会）４団体、３人 （国際大会）１団体

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	助成対象者にとって、大会参加に当たりパフォーマンス調整がしやすくなり、大会での成績向上に寄与していると考えられる。助成対象者がこの助成金を使用すれば、大会参加に向けて多岐にわたる計画を立案することができるため、更なる好成績を期待できる。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

≪新規≫

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	—

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

平成２８年度からの新規事業。

評価委員意見（平成28年度）

適格な予算配分で、効果的な支援をしていただきたい。

事務事業評価シート

施　策　名	スポーツ情報の充実	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	スポーツの記録等の収集・保存要領（平成９年制定）のもと、スポーツ史発行に向け各団体の情報収集を行う。 町制１００周年記念スポーツ史　平成９年８月２８日　発行 町制１２０周年記念スポーツ史　平成２９年度 ・・・冊子、CD-R（PDF形式）発行予定			
事業の対象	学校、体育協会、スポーツ少年団			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	250 千円

事業の実績・成果等（数値）	年２回（１１月下旬、３月下旬）学校・体育協会・スポーツ少年団へ情報提供を依頼し大会出場記録等をいただいている。 平成２９年２月、１２０周年記念誌原稿について依頼。 ・３９スポーツ団体（旧加盟団体含む） ・８町内学校（廃校分については教委作成）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	１００周年記念スポーツ史作成以降、２０年分の記録集として１２０周年記念誌を平成２９年度作成する。作成後、スポーツ団体及び近隣市町村等へ配布し町民の方へは販売する予定としている。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		C	C	C	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

データで残すなど後世へつなげるよう大切にしてほしい。
ホームページで閲覧できれば良いと思う。
記録として必要なので作ってほしい。
保存方法や活用のされ方も検討してほしい。

評価委員意見（平成28年度）

将来的には、直に検索できるような、常に更新できるようなデータシステムにして欲しい。

事務事業評価シート

施　策　名	スポーツ情報の充実	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツカレンダーの発行	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	スポーツ推進委員名簿・体育協会名簿・スポーツ少年団名簿・体育施設の情報・大会予定日等を掲載することで、町民の意識を高め、よりスポーツを身近に感じてもらう。			
事業の対象	町民			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２６年度より毎戸配布から施設及び町ＨＰへの掲載としている。 　３月下旬　各団体へ情報提供依頼 　４月中旬　情報整理、カレンダー作成準備 　５月１日　町内各施設へ設置、町HPへ掲載 設置場所 　町内公共施設　計４７０枚 　小・中学校　各１枚　　計　４７４　枚

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	町民の方へ、よりスポーツを身近に感じてもらうため、町内スポーツ施設や公民館等の人が集まる場所へ設置している。周知方法をより検討し、今後も町民へのスポーツ情報提供に努めたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

今後も継続してほしい。
取り組み自体はＡである。
近所なので、車が多い時などカレンダーで把握している。

評価委員意見（平成28年度）

今後も継続してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	社会体育施設・設備の整備・運営	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	体育施設の総合的な修理修繕と運営	担当者名	安村英彦

事業の目的・内容	住民が気軽にスポーツを楽しむことが出来るよう、使いやすく、快適性のある身近なスポーツ施設整備の促進に努める。そのため、スポーツ施設の整備充実を図る。
事業の対象	社会体育施設（スポーツ施設）

事業費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	3,129 千円	3,712 千円	7,296 千円

事業の実績・成果等（数値）

各社会体育施設修繕　　平成２７年度

支出	町立体育館	修繕	2,040,746円	備品購入	503,928円
	運動公園	修繕	617,198円	備品購入	96,120円
	プール	修繕	759,564円	備品購入	2,035,800円
	体育センター	修繕	293,976円		

①野辺地町立体育館
施設内修繕（トランス撤去、排水ポンプ交換、照明交換ほか）
備品：ＡＥＤ１台、ハンドボールネット・キャッチネット各２対、バレーカバー２組ほか
②野辺地町運動公園
施設内修繕（芝刈機、遊歩道等補修、遊具撤去、トイレ水栓器具便器交換修繕等）
備品：野球カウント表示器１台、刈り払い機３台、サッカーネット１対はか
③屋内温水プール
施設内機械改修工事・修繕等
備品：トレーニング機器２台、ＡＥＤ１台、高圧洗浄機１台ほか

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

成果：予算の範囲内で工事・修繕・備品購入等が予定どうり実施できた。
課題：本年、体育施設において修繕等を計画的に実施しているが、老朽化ですべての施設において大規模な工事等が必要である。
H29より新総合体育館（仮称）の建設計画を策定する。

事業の方向性

■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

公式の大会など開催できる施設として改修してほしい。
災害時の避難所としての役割としても考えた整備をしてほしい。
修繕、工事においては、町内の業者を優先して使ってほしい。
今後、新築を考えているならば、総合的に使えるような施設にしてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	社会体育施設・設備の整備・運営	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	体育施設利用団体会議開催による有効活用意見の聴取	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	限られたスポーツ施設をより多くの団体が利用できるよう調整して、年間の割当てを決定する。			
事業の対象	体育協会、スポーツ少年団、中学校部活動、高等学校部活動			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	○割当団体 町立体育館　１４団体 青少年体育センター　８団体 運動公園　８団体

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	利用割当てを決めることにより、円滑に各団体が利用できている。しかし、利用時間を守らなかったり、ゴミを片付けなかったりとマナーの悪さが目立ち、ほかの利用団体に迷惑をかけている団体が見受けられる。皆が協力し合いスポーツ活動ができるよう指導したい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

利用者、団体のマナーについて啓発を活発にしてほしい。
もっと、利用者に規制して厳しくしてほしい。
利用者に使った後のゴミ等あとしまつをチェックできるようなチェック表を書いてもらってらどうか。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	キャリア教育の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	チャレンジショップ	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	これからの地域を担う児童・生徒を対象に「自ら考え、実践する力」を育むことを目的とし、キャリア教育の支援を支えるため、持続可能な地域社会の構築とコミュニケーション能力の育成を目的に実施する。			
事業の対象	小学３年生から中学生			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	商工会予算 千円	〃 千円	〃 千円

事業の実績・成果等（数値）	９月２４日（土）　９：００～１４：００ 「ずっぱど・わっかど産業まつり」内で、子どもたちがグループ゜に分かれて企画から販売までを子どもたちが行った。 （チョコレートファウンテン・ホタテ塩焼きそば） また、当日会場で使える商品券を報酬として配布した。 事前の研修では、販売する商品の決定や役割分担、試作を行った。 参加人数　７名（小５：３名、小６：４名／ 野小：４名、若葉：３名／男４名、女３名）

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	成果：販売体験だけでなく、企画の段階から事業に携わることで、子どもたちは、商業の楽しさや苦労、達成感を味わうことが出来た。 課題：子どもたちの主体的な活動意欲を生み出すためにも、商工会との連携を継続していくことが今後の人財育成につながるものと考える。 　また、事業の周知に関しても、事業参加に積極的な児童の目に留まるような周知方法を検討していく必要が有る。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

子どもたちにこういう体験の機会を与えられることは非常に良い事だ。
是非、今後も続けてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ